

レモン彗星C/2025 A6に期待

レモン彗星C/2025 A6

レモン彗星(C/2025 A6)は、今年2025年1月3日にレモン山天文台の掃天観測(レモン山サーベイ)により発見された彗星です。レモン山サーベイは過去にも数多くの彗星を発見しているので、レモン彗星という名の彗星も多くあるのですが、彗星には彗星符号(今回のレモン彗星ではC/2025 A6)が振られていて、これによって他の同名の彗星と区別されます。

発見当初は、特に注目されることはありませんでしたが、8月下旬に入って予想よりも明るくなっていることが分かり、注目を集めています。

レモン彗星は明るくなるのか？！

レモン彗星の明るさに関しては、まだあまり観測が集まっておらず、8月下旬に明るく観測されているのも一時的な物なのか、ずっと続くものなのかも良く分かりません。この原稿を書いている時点(8月下旬)では、あまり自信を持ったコメントができないのですが、10月の下旬から11月の初めにかけて、ひょっとすると肉眼でも見えるほどの明るさになる可能性もありそうです。昨年明るくなったツチンシャン・アトラス彗星をしのぐほどの明るさを予想している記事も見かけますが、個人的にはそこまでは明るくならないだろうと現時点では想像しています。この「うちゅう」がお手元に届くころには、観測も多く集まってきているでしょうし、ある程度信憑性のある予報が出てきていると思います。都市部でも観察できる可能性がありそうならば、科学館学芸員のX等でも情報を発信していこうと思います。

レモン彗星はいつどこに見えるか？

このレモン彗星に限らず、彗星の明るさに関しては不確定要素が多いものですが、彗星の軌道はすでに観測から精度よく決定できていますので、いつどの位置に彗星が見えるかということについては確実な予報ができます。

レモン彗星が明るくなるとすれば、観察に適した時期は、10月21日頃から11月8日頃ではないかと想定しています。もっとも明るくなりそうなのは、10月28日前後と想定しています。

この期間、彗星は日没後の西の空に見ることができます。次ページの図で、10月から11月の期間の2日ごとの日付について、大阪で日没90分後のレモン彗星の方位と高度を計算した位置を10月28日の星空と重ねて表示しています。日によって日没90分後の星空は微妙に位置が変わりますので、恒星と彗星の位置関係は正し

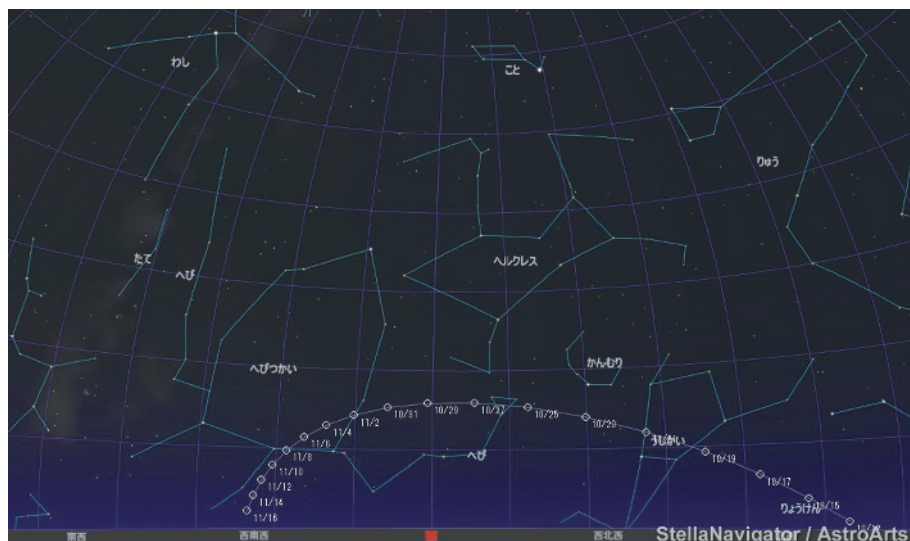
くならないので注意が必要です。

日没から90分が経過しますと、都市光の無い所では夕焼けの影響がほとんどなくなります。この時間帯でも仰角10度以上の高さを維持していますので、夕焼けの影響という観点では、とても観測しやすい位置関係の彗星と言えます。

観測する日によって、彗星の見える方位は西北西から西南西へと移っていきますが、西の空の見晴らしの良い観測場所を確保しておくことが重要です。

明け方に見える彗星であれば、まだ彗星が見えない早い時間のうちに、望遠鏡の位置を精密に合わせておいて、時間が来たら彗星が望遠鏡の視野に移動してくるのを待つ「待ち伏せ観測」が可能です。夕方に見える彗星はどうしても星が見え始めてから望遠鏡の位置を合わせていかなければならないので、時間との勝負になりがちです。今回のレモン彗星は、比較的観測可能な時間が長めですが、観測場所の見晴らしがよいほど、観測可能時間が長くなるので、観測に成功しやすくなるでしょう。

月の状況は、10月21日が新月です。10月23日か24日くらいまでは、月の影響を気にせず観測できそうですが、その後は、11月7日か8日頃まで月明かりの中での観測となります。計算上彗星が最も明るくなりそうな10月28日前後は月明かりが避けられないため、10月21日から23日頃のうちに観測した方が、見栄えが良い可能性もあります。彗星の明るさや尾の伸び方に関しては予想が難しいですが、立派な彗星になることを期待して、最新情報に注目してください。



図はステラナビゲータ10(©アストローツ)で制作しました

飯山 青海(科学館学芸員)